

筑波大学新聞

第296号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 秋野祥三
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

紙面から

睡眠時無呼吸症候群 学園祭講演
舞踊研究室身体広場 ラグビー関東大会対抗戦 33年ぶりに早稲田大に勝利 9年ぶりの優勝果たす 今年度のテーマは「いびき」
11月9日 5頁 3頁 2頁
特集 6,7
自転車で巡るつくば

ヴルフ独大統領が来学

学生対象に講演を行う

クリスティアン・ヴルフ「Nano Art from Germany」を山田信博学長らと見学。「美的に優れており、技術の持つ可能性を感じた」と感想を語るなど、写真の説明に熱心に耳を傾けていた。その後、ホールで山田学長から名誉博士号を授与され、計6500人が大統領の言葉に聞き入った。また、ドイツで活躍している本学生として、現在ドイツのサッカークラブに在籍するなど、ジャパンの安藤梢選手(体科3年)と、ベルリン工科大学教授で本学卒業生の井上茂義さんがヴルフ大統領に同行して本学を訪れた。



ヴルフ大統領(左)と山田学長

講演会に参加した飯塚卓奈英さん(看護1年)は、「期待以上に興味深い話と感想を話した。」

だった。看護を学ぶ上で今後外国人と接することもあろうと思うが、そのときはきちんと人間として彼らを見て、互いの人権を考えた。国際的な場を見ることができて、学ぶことへのモチベーションが上がったと感想を話した。

生涯学習機能の拡充を目指す 環境に配慮したつくり

大塚校舎改築 本学東京キャンパス東京校舎および放送大学東京京学習センターの合同開所式が、9月30日に文京区大塚の新校舎で行われた。同校舎は生涯学習の拠点としての機能を拡充するため、本学と放送大学が共同で建設を進め、8月11日に完成した。



木々に囲まれた大塚校舎



子供たちの描いた「夢」が、「ゆめ花火」として学園祭最後の夜を彩る。祭を通してたくさんの想いが息吹いた。誰かからの「思い」を、あなたも受け取ったことだろう。(撮影・バク・ジョンヒョク=物理学類)

油を生む藻類、仙台で研究へ 4、5年後の実用化を目指す

本学は油を生み出す藻類「オランチオトリウム」の実用化を目指した開発を、東北大学、仙台市と共同で行う。場所は同市の南蒲生浄化センター。11月中旬

に両大学の学長と仙台市長との間で協定が結ばれる予定で、4、5年後の実用化を目指す。石油を低コストで産出する。震災復興事業だけでなく、新たなエネルギーシステムとして資源の問題を解決する可能性も秘めており、注目を集めている。

南蒲生浄化センターは仙台市の沿岸部にある下水処理施設。東日本大震災により、機械設備が破壊されるなど壊滅的な被害を受け、現在は復旧作業が続いている。オランチオトリウムは水中の有機物をもとに重油をつくるため、開発研究では生・産業排水を利用

つくば歳時記

ある調査によれば、未婚女性の約4割が、震災前より結婚願望が強まったと感じている。震災は身近な人とのつながりを見つめ直す機会となったようだ。▼夏休みの震災ボランティアで、原発事故で多くの人が避難している福島に会津若松を訪れた。3歳で両親と離れ親戚と暮らす男子の子や、狭い仮設住宅に家族9人で住む4人兄弟に出会った。避難先がホテルで思いきり遊ばず、私達が行くところへついてくる子供達もいた。▼でも子供達は皆笑顔だった。一緒に遊ぶことで少しでも元気を与えられればと参加したボランティアだった。友達と毎日ぎややかに遊ぶ子供達から逆に元気をもらった。家族や親戚、友達とのつながりが安心感と自信を与えているからだと感じた▼つながりと言えば、あのFacebookも、創業者マーク・ザッカーバークの周りの数人の大学生から始まった。今や世界最大のSNSだ。きっかけは小さくても、時代の流れに合った仕掛けと、それを育てる才能と熱意があれば物事は進むのだ。▼いつ故郷に帰れるかもまだ分からない福島の子供達。あの笑顔を抑えられないために私たちに何ができるのだろう。震災後本学でも、専門研究から学生のボランティア活動まで、被災地へのさまざまな支援が行われた。そのつながりをどう保ち、大きくするかが今後の課題だ。

田信博学長と放送大学学園の白井克彦理事長、来賓の板東久美子文部科学省生涯学習政策局長があいさつし、附属学校教育局長の東照雄副学長が、施設の概要について解説した。玄関前でテープカットが行われた後、施設見学が実施され、各講義室などを見て回った。最上階の6階では「ここから東京スカイツリーが見えます」との説明を受け、見学者は窓際に集まり、ビルの間に見えるスカイツリーに見入っていた。最後に懇談会が開かれ、清水潔文部科学事務次官や成澤廣修文京区長らが駆けつけた。

本学は、全体の7割強を利用する。新校舎には、附属学校教育局と社会人のための夜間大学院であるビジネス科学研究科のほか、人間総合科学研究科の一部の専攻と理療科教員養成施設が入る。また、法科大学院とともに、筑波アカデミア法律事務所が秋葉原タイピ

ル(東京都千代田区)から移転した。校舎は、教育の森公園などどこに隣接しており、木々に囲まれた閑静な場所に位置する。レンガ調の壁面は、周囲の景観なじみでいる。中庭や屋上が緑化されており、自然環境の保全に努めたつくりとなっている。全館でLED照明を使用するなどし、従来と比べて4割のコスト削減を実現した。また、空調設備の室外機にミストを散布することによって、冷却効率を高めるとも、省エネルギー対策にも取り組んでいる。また、全フロアで段差をなくすなど、バリアフリー化も徹底している。

東副学長は「立派な新校舎が完成してよかった。大学院だけでなく、学内のさまざまな組織などにも、ぜひ活用してほしい」と話した。

筑波おとこ

ある調査によれば、未婚女性の約4割が、震災前より結婚願望が強まったと感じている。震災は身近な人とのつながりを見つめ直す機会となったようだ。

第1回筑波宇宙フロンティアフォーラム JAXAの國中教授が講演

宇宙ミッションを発信

はやぶさについて語る

第1回筑波宇宙フロンティアフォーラムが10月29日に1101教室で開催された。このフォーラムは「筑波大学から宇宙ミッションを」がテーマ。本学宇宙航空開発研究機構(JAXA)、産業技術総合研究所(AIST)などで行われている宇宙に関連した幅広い分野の研究を紹介することで相互の交流を深めることを目的としている。



イトカワ(右下)と月を比較

「はやぶさ小惑星探査機の深宇宙探査では、はやぶさに搭載された独自のエンジンである「イオンエンジン」を開発したJAXAの宇宙科学研究所の國中教授が講演した。構想から実証・性能達成まで10年もの時間を要したイオンエンジンには、推進力は低いが長時間の連続動作が可能だ。國中教授はそのイオン

エネルギーの構造や、はやぶさ搭載に至るまでの道のりを解説した。「イトカワのような小さな惑星に行き着くのは、太陽光をどう使うかという海外からの負の応援を受けて頑張った」と國中教授は語った。

七沢潔氏講演会

原発事故の実像伝える

事実と向き合う覚悟必要

NHK放送文化研究所主任研究員の七沢潔氏による講演会「放射能汚染の向こうの未来」が、10月29日(土)午後7時、市民や学生約80人が訪れた。

七沢氏は、今年5月に放送されたNHKのE-TV特集「NHKのE-TV特集」

現在は、はやぶさを計画して2014年に打ち上げ、2020年に帰還予定だ。次は太陽光を使ったエンジンを開発中で、50センチの巨大膜面太陽電池のエンジンを搭載する予定だ。

國中教授は「はやぶさは技術者、科学者の総力を結集し、粘って7年間の宇宙航海を全うし地球帰還を果たした。小さな技術革新が世界を先導し、次の未来を開いた。努力して自分たちが作ったものが未来を開く」と自身の経験を踏まえ、熱く語った。

他にもパネル展示や次世代の宇宙技術、社会に役立つ宇宙医学などの講演があった。

参加者の高山孝志さん(情報1年)は「普段聞けないような話が聞けた、とても貴重な講演でした。専門的な知識を持っていないので、理解しやすく、新たな発見もありました。このようなフォーラムがこれからも行われてほしいと思います」と話した。

栃木県から来た男性は「七沢氏のお話を直接聞くことができて大変うれし。自分の使命や責任をしっかりと果たす強い意志のある人だと感じた」と語った。

本講演会の様子は、動画投稿サイト「YouTube」で公開される予定だ。

調査したチェルノブイリと福島第一原発事故後の福島県の写真を中心に、原発災害の実像について語った。

福島県を取材する中で七沢氏は、原発事故による土地や空気の汚染で、故郷で農業や家畜の生産を続けることができなくなった人々に出会った。その写真を前に「原発事故は、人々の存在を奪われ、人生を狂わされた人がたくさんいる」と語った。

七沢氏は最後に「福島で現在起こっている事実から目をそらさないでほしい。今こそ、原子力発電というシステムを支持するのかが問われているときだ」と訴えた。

講演の後には質疑応答の時間が設けられ、活発な意見交換が行われた。都内から来た大学生が「これまでの日本が原発を推進してきたことは、大学にも責任があると考えている。キャンパスの中から脱原発を訴える恐れもある。あおむけの体勢で寝ている時はあごの関節がゆるんで気道が狭まり、呼吸に伴い空気が振動する。これがいびきの原因だが、肥満体形の人の場合は舌の周りの脂肪が狭まり、脂肪が付き、気道が詰まることで、呼吸ができなくなる。だが佐藤教授の調査で、肥満でなくともあごの小さい人、へんどう腺が肥大しがらな子供も無呼吸症候群

なる恐れがある」と話した。古村孝志氏は「地震対策の重要性を語る。想定の見直しを指摘」

古村氏は「地震津波観測とシミュレーションを融合した、次世代津波防災システムの構築を実現させた」と研究の抱負を語り、「自分の家が耐震基準を満たしているからといって安心できない。身を守るために、家具の固定を行うことは大切。自治体の補助を使って専門家に工事を任せると、個人でしっかりと地震に備えて」と呼びかけた。

講演会や研究発表を実施

留学生のホームステイも

ウズベキスタン・日本学生学術フォーラム2011

本学と駐日ウズベキスタン大使館主催の「ウズベキスタン・日本学生学術フォーラム2011」が

10月29、30日に行われ、学術発表、文化の紹介、講演会などが行われた。昨年名古屋大学で第1回フォーラムが行われ、今回は2回目の開催。名古屋大学や早稲田大学などからも学生が参加し、100人を超える参加者が訪れた。

本学は、2007年にウズベキスタンの首都タシケントに中央アジア国際連携センターを開設し、昨年度には中央アジア地域からの留学生が70人を超えるなど、ウズベキスタンとの交流が盛んに行われている。

学内では立食パーティーも行われた



こうした関係から、ウズベキスタン大使館が本学の開催を強く希望し、今回のフォーラムが開かれることになった。

フォーラムでは有識者による基調講演の他、25人の学生による言語、社会、政治、経済などさまざまな分野の研究発表が行われた。参加者は学生たちの発表に熱心に耳を傾けていた。発表を行った齊藤竜太さん(国地2年)は「2年前から現地調査を始めた研究を発表できてうれしい。留学生の視点は新鮮で、いい刺激になった」と話した。

フォーラムの一環として、ウズベキスタン人留学生のホームステイが、市土浦市などで行われた。ホームステイに参加した早稲田大学のノデル・ヤラシェフさんは「家族と離れて暮らしているのが、家庭を思い出して懐かしい。普段話さない年代の人と話せるのが楽しい」と話した。

留学生を受け入れたのは市に住む白木由美子さんは「ペリリダンスが趣味のためウズベキスタンに興味があったものの、場所や歴史は今回初めて知った。ウズベキスタンの話をたくさん聞きたい」と話した。

学生実行委員長の伊藤文さん(国地2年)は、「学生が研究を発表する機会が少ないので、今回のフォーラムは貴重な機会になる。フォーラムはあくまでも通過点で、今後も良好な関係を築いていきたい」と語った。

睡眠中に気道がふさがり、呼吸が何度か止まってしまふ無呼吸症候群は、肥満の中年男性が主な患者であるといわれてきた。だが、本学の佐藤誠教授(医学医療)の調査で、やせ型や標準体型でもかかるということがわかった。



原発システムの見直しについて訴える七沢氏

睡眠時無呼吸症候群

やせ型や標準体型も発症

睡眠のあり方見直しを

睡眠中に気道がふさがり、呼吸が何度か止まってしまふ無呼吸症候群は、肥満の中年男性が主な患者であるといわれてきた。だが、本学の佐藤誠教授(医学医療)の調査で、やせ型や標準体型でもかかるということがわかった。

睡眠時無呼吸症候群とは、睡眠中に10秒以上呼吸が停止する無呼吸状態が1時間に5回以上、あるいは一晩に30回以上起こる病だ。本人が自覚せずに進行し、放置すると心臓突然死、動脈硬化や糖尿病になる恐れもある。あおむけの体勢で寝ている時はあごの関節がゆるんで気道が狭まり、呼吸に伴い空気が振動する。これがいびきの原因だが、肥満体形の人の場合は舌の周りの脂肪が狭まり、脂肪が付き、気道が詰まることで、呼吸ができなくなる。だが佐藤教授の調査で、肥満でなくともあごの小さい人、へんどう腺が肥大しがらな子供も無呼吸症候群

なる恐れがある」と話した。古村孝志氏は「地震対策の重要性を語る。想定の見直しを指摘」

古村氏は「地震津波観測とシミュレーションを融合した、次世代津波防災システムの構築を実現させた」と研究の抱負を語り、「自分の家が耐震基準を満たしているからといって安心できない。身を守るために、家具の固定を行うことは大切。自治体の補助を使って専門家に工事を任せると、個人でしっかりと地震に備えて」と呼びかけた。

満でなくとも無呼吸状態になる患者が多い。「昼間いつも眠い、目覚めがすっきりしない、夜に何度か目を覚ます」という人は要注意。寝ている間に無呼吸状態になって何回も起きていたため、常に睡眠不足状態になっている」と佐藤教授は指摘する。

治療法としては、まずアイレットが挙げられる。骨格の問題がある人は、マウスピースや、マスクを着けて空気を送り込むCPAP療法、重度の患者にはあごの整形手術を行う。

だが、無呼吸症候群は生活の変化から発症するたため、生活習慣病と言ったこともできる。「治療するほどでなくとも、2人に1人が発症している可能性がある。普段の生活の中で、睡眠というものを大切にしたい」と佐藤教授は話す。

NHK 武田真一アナウンサー講演 災害放送の今後について語る

視聴者に行動を促す放送を

本学OBでNHKチーフアナウンサーの武田真一氏(平成2年度社会学類卒)の講演会「命を守る放送をめざして」が学園祭2日目の10月9日に、1D201教室で行われた。武田氏は東日本大震災発生直後の放送に携わったことについて「言葉が命を救うのに役に立たず、無力感を感じた」と話し、今後あるべき災害放送についてを中心に語った。会場には多くの人が詰めかけ、立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。

武田氏はスライド上で、震災報道に携わった他のアナウンサーの手記を紹介し、手記には「マニュアルに従い、停電前に津波の情報を伝えられなかった」という悔恨や「東北勤務経験で得た災害関連の知識が固定観念となり、想像性を失っていたのでは」と葛藤する様子を語った。

災害時に自動的に電源が入る防災ラジオ機能を搭載したラジオの普及など放送以外でなされるべき社会的措置の必要性にも言及。町長のアイデアで、あいまいな避難指示ではなく命令調で放送を行った茨城県大洗町の防災行政無線についても紹介した。そして、「...かされた」と話した。

講演後の質疑応答では、制限時間まで多数の参加者が、テレビ局や武田氏の仕事などについて積極的に質問していた。講演を聞いたつば市在住の女性は「災害時の放送は改善の余地があると感じた。停電のために市販のテレビにバッテリーをつけるなど、放送が伝わるための仕組みを整備することの重要性にも気がかされた」と話した。

留学生懇談会 留学生と教員が交流

山田信博学長が主催する留学生懇談会が10月19日に第二エリア食堂で行われた。このイベントは本学の留学生を歓迎し、学内外の支援者との交流を目的としており、教員だけでなく国際交流団体の関係者も参加した。

最初に山田学長は「毎年留学生と話し合うことができるとも嬉しい。今年は3月11日の震災で不安な気持ちを持っている留学生が安全に勉学、研究ができるよう努力する」と挨拶をした。

懇談会では立食形式で留学生と教員が現在の大学生活について自由に話した。また山田学長と留学生の有志によって本学のメッセージング「IMAGINE THE FUTURE」が英語で歌われた。

懇談会に参加した留学生のヌル・アケマルさん(国総1年)は「さまざまな国から来た留学生との交流で友達ができうれしい。みんなの前で歌うのが恥ずかしかったが、このイベント



学長と歓談する留学生たち

は本場に意味があると思う」と話した。

辻中豊副学長(国際担当)は「留学生を歓迎する意味がある。しかし、このイベントは留学生だけを参加の対象としている。もっと日本の学生と留学生が交流するイベントを作りたい」と語った。



TSUKUBA FUTURESHP 寄付者一覧(敬称略)

- | | | | | | | |
|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 坂根正孝 | 東山和幸 | 岩本浩二 | 北脇信彦 | 佐藤慎一 | 曾根博仁 | 杉田倫明 |
| 坂本茂 | 一二三朋子 | 上原直史 | 熊谷嘉人 | 山海嘉之 | 高橋智 | 鈴木浩明 |
| 佐藤慎一 | 福田啓子 | 植松貞夫 | 桑原俊明 | 杉田倫明 | 土子昇 | 関祐秀 |
| 佐藤大輔 | 藤倉紀子 | 宇川彰 | 小松原栄 | 鈴木久敏 | 堤一隆 | 曾根博仁 |
| 杉田倫明 | BENTON | 内田俊夫 | 近藤康博 | 鈴木稔 | 道本裕大 | 高橋智 |
| 鈴木久敏 | Caroline Fern | 宇南山弘谷 | 金野秀敏 | 関祐秀 | 生井栄 | 竹村優一 |
| 鈴木稔 | | 潤米保男 | 坂根正孝 | 曾根博仁 | 野崎剛 | 田辺祐子 |
| 関祐秀 | | 榊和子 | 坂元暁子 | 高橋智 | 萩原利典 | 土子昇 |
| 曾根博仁 | | 増尾弘美 | 佐藤忍 | 竹村優一 | 服部利明 | 徳岡慶一 |
| 高橋智 | | 松下幸三郎 | 佐藤慎一 | 土子昇 | 板東享男 | 中内靖 |
| 土子昇 | | 宮越俊一 | 杉田倫明 | 直江俊雄 | 東照雄 | 中川昭 |
| 中村昭 | | 宮越リカ | 鈴木拓郎 | 生井栄 | 東山和幸 | 生井栄 |
| 生井栄 | | 森田仁 | 鈴木久敏 | 根本富彦 | 一二三朋子 | 西野虎之介 |
| 根本乾一 | | 森本浩一 | 鈴木稔 | 野崎剛 | BENTON | 野崎剛 |
| 野崎剛 | | 安武幸雄 | 関祐秀 | 服部利明 | Caroline Fern | 服部利明 |
| 野々村淳 | | 山下勝也 | 曾根博仁 | 東照雄 | 前田大地 | 原田正剛 |
| 波多野澄雄 | | 山田務 | 高橋智 | 東山和幸 | 増尾弘美 | 東照雄 |
| 服部利明 | | 吉田恵理子 | 筑波大学人間学 | 久武幸司 | 松本好隆 | 東山和幸 |
| 東照雄 | | 吉水千鶴子 | 類7期同窓生 | 一二三朋子 | 宮下善行 | 一二三朋子 |
| 東山和幸 | | 渡辺和夫 | 辻裕幸 | BENTON | 宮脇美也子 | BENTON |
| 一二三朋子 | | 【9月】 | 土子昇 | Caroline Fern | 森本浩一 | Caroline Fern |
| 福原行也 | | 阿江通良 | 長久保博徳 | 増尾弘美 | 矢羽々剛 | 堀謙介 |
| BENTON | | 有波忠雄 | 長坂邦彦 | 水谷太郎 | 山下勝也 | 前野貴美 |
| Caroline Fern | | 飯田聖士 | 中沢市夫 | 宮崎雪峰 | 湯川光代 | 増尾弘美 |
| 穂積本男 | | 石濱光朗 | 中澤斉 | 宮本陽一郎 | 吉仲崇 | 増子博保 |
| 槇島則子 | | IRVING LOUIS | 永田友市 | 森本浩一 | 米倉敦 | 溝渕宗秀 |
| 増尾弘美 | | JOHN | 中山欣司 | 山下勝也 | 鷗田由美 | 森本浩一 |
| 松沢宏明 | | 筑波大学医学群 | 生井栄 | 【7月】 | 阿江通良 | 山口佳樹 |
| 森嶋厚行 | | 看護学類5回生 | 根岸一星 | 阿江通良 | 畔上泰治 | 山崎節雄 |
| 森本浩一 | | 一同 | 野崎剛 | 赤羽勝雄 | 阿部生雄 | 吉岡高志 |
| 山下勝也 | | 岩本浩二 | 服部環 | 秋山勝雄 | 天野勝利 | 【5月】 |
| 山田務 | | 植松貞夫 | 服部利明 | 有波忠雄 | 新井保幸 | 阿江通良 |
| 山元俊一 | | 宇川彰 | 東照雄 | 飯田仁 | 有波忠雄 | 有波忠雄 |
| 柚木晴美 | | 鶴沢力 | 東山和幸 | 飯田聖士 | 飯田聖士 | 飯田聖士 |
| 渡邊善巳 | | 内田俊夫 | 一二三朋子 | 池原耕太郎 | 飯田聖士 | 石濱光朗 |
| | | 宇南山弘谷 | 廣瀬雅哉 | 石橋文雄 | 石濱光朗 | IRVING LOUIS |
| | | 潤米保男 | 福島大吉 | 石濱光朗 | 石原浩 | JOHN |
| | | 大手昇一 | BENTON | 糸川弘 | IRVING LOUIS | 植松貞夫 |
| | | 大根田修 | Caroline Fern | JOHN | JOHN | 宇川彰 |
| | | 岡村直道 | 北條宏 | 植松貞夫 | 植松貞夫 | 宇南山弘谷 |
| | | 遅野井茂雄 | 増尾弘美 | 宇川彰 | 宇南山弘谷 | 潤米保男 |
| | | 貝瀬隆拓 | 村田茂 | 鶴沢力 | 潤米保男 | 大手昇一 |
| | | 金保安則 | 森本浩一 | 宇南山弘谷 | 太田充 | 大根田修 |
| | | 神矢良知 | 森山泰夫 | 江田昌佑 | 大根田修 | 岡村直道 |
| | | 川那部保明 | 山浦巖 | 大根田修 | 岡村直道 | 貝瀬隆拓 |
| | | 川村卓 | 山口松太郎 | 岡村直道 | 岡村直道 | 角田和男 |
| | | 菊地大介 | 山下勝也 | 小内稔 | 笠原勇二 | 金保安則 |
| | | 菊池信孝 | 山田務 | 貝瀬隆拓 | 金保安則 | 神矢良知 |
| | | 木津孝道 | 吉澤敏武 | 渡辺雅仁 | 神矢良知 | 川那部保明 |
| | | 熊谷嘉人 | 渡辺雅仁 | 【8月】 | 川那部保明 | 川村卓 |
| | | 小松原栄 | 阿江通良 | 阿江通良 | 川村卓 | 菊池信孝 |
| | | | 有波忠雄 | 赤羽勝雄 | 菊池信孝 | 熊谷嘉人 |
| | | | 飯田聖士 | 秋山勝雄 | 熊谷嘉人 | 上妻雅浩 |
| | | | 池嶋聖也 | 有波忠雄 | 後藤順子 | 小松原栄 |
| | | | 石濱光朗 | 飯田聖士 | 鈴木久敏 | 鈴木稔 |
| | | | 伊藤久雄 | 池嶋聖也 | 関祐秀 | |
| | | | IRVING LOUIS | 石濱光朗 | | |
| | | | JOHN | 伊藤久雄 | | |

寄附のお問合せ・お申込み
筑波大学基金事業室
〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL: 029-853-2178
FAX: 029-853-6020
E-mail: futureship@un.tsukuba.ac.jp
筑波大学基金ホームページ
https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp

バイオeカフェ

学園祭で生物のしくみを語る

遺伝子の不思議を講演
標本の観察やクラフトコーナーも

生物学類と生命環境科学
研究科が主催するバイオe
カフェが、学園祭期間中の
10月10日に第二エリア食堂
で開催された。54回目とな
る今回は「いきものばっか
り」生物学類って何やって



熱心に語る澤村講師

るの」をテーマに、澤村
京一講師(生環)、岩井宏
暁講師(同)千葉親文准教
授(同)、齋藤康典准教授
(同)の計4人を教員を講
師に招いた。学園祭期間中
のため、講演には学生だけ

でなく、親子連れや高校生
の姿も見られた。
「遺伝子によって決まる
こと、決まらないこと」を
テーマにした澤村講師は
子どもにもわかるよう「遺
伝とは何か」という質問で

参加者の興味をそそぎ、具
体的なイメージから話を進
めた。
後半では「遺伝がすべて
を決定しているという誤解
を正す」ということを主軸
に話を進めた。子に現れる
性質や特徴である形質は遺
伝と環境によって変わるの
だと説明したあと、「回帰
という現象を紹介した。回
帰とは標準から外れた親か
らは、平均して標準により
近い子供が生まれるという
ものだ。背の高い親から生
まれた子供は、親よりも身
長が低くなる可能性が高
く、背の低い親から生まれ
た子供は親より身長が高く
なる可能性が高くなるとい

劇団SONICBOOM第84回秋公演
一足早いクリスマス
ユニークな舞台演出で工夫

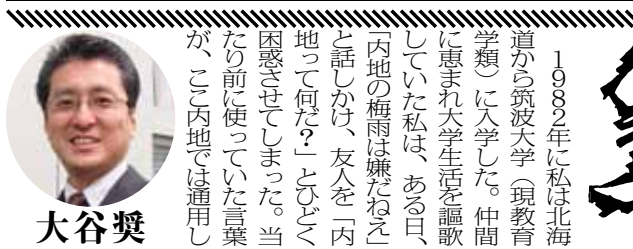
劇団SONICBOOM
の第84回秋公演「くりす
ますあうとおぶざしず
ん」が10月29、30日に7A
105教室で行われた。2
日間、計3回の公演で合
して38人が足を運んだ。
今回の公演は序幕「まろ
るおぶ」、第1幕「おもちゃ
やさん」、第2幕「真っ
赤なお鼻のナカイさん」、
第3幕「あわてんぼうのど
ろぼうさん」の演出に進
められた。サンタが営むお
もちゃ屋に務めることに

を観察できるコーナーや
DNAのビーズストラップ
やカプトムシ・動物細胞な
どのクラフトを作成する
コーナーがあった。顕微鏡
のコーナーでは子供たちが
食い入るように顕微鏡を覗
き込み、クラフトコーナー
では子供から大人まで工
作に熱中していた。

Performing Arts・14 身体広場
「日常からの解放」をテーマに舞う
つくばセンターに異空間を作る

筑波大学舞踊研究室主催
の「Performing
Arts・14 身体広場」
が、10月26日につくばセ
ンターのアイイモール広場
前で開催された。
14回目を迎える今回は、
地域の人にも身体表現の持
つ魅力を伝えたいという思
いから、誰もが気軽に足を
運べるつくばセンターでの
開催となった。会場には多
くの人が訪れ、さまざま
現代ダンスを楽しんだ。

「寒空の下で真剣に頑張
っていたと思う。何年も見
ているが、今回も楽しめた
と感想を語った。パフォー
マーの水島晃太郎さん(体
専2年)は「この場所で踊
るのは初めてだったが、空
が見えて開放感があった。
楽しみながらパフォーマン
スが出来た」と語った。



「身体広場」を演じるパフォーマーたち

主催者の幅田彩加さん
(体育1年)は「実際につ
くばセンターでパフォー
マンスをして、普段は観に
来ない人が身体表現に触
れる機会を作れた。日常に突
出現した異空間は時間を忘
れさせ、身体を通じた心の
表現は人の心を潤すことが
できるだろう」と語った。

1982年に私は北海
道から筑波大学(現教育
学類)に入学した。仲間
に恵まれ大学生活を謳歌
していた私は、ある日、
内地の梅雨は嫌だねえ
と話しかけ、友人を「内
地って何だ?」とびびり
困惑させてしまった。当
たり前に使っていた言葉
が、この内地では通用し
ないのだ。確かに北海
道から離れてみると
色々となることが多
かった。「大志を抱け」
と進取の気性やフ
ロンティアスピリ
ットを強調する一
方、手つかずの
広大な自然とい
った未開のイメージ
を売り出そうとする
矛盾。そういう
小学生の時、開
拓百年といった
行事があったが、
北海道の歴史とは
何なのか。
そのころ卒論の
テーマを決めな
ければならぬ最後の春休
みに図書館で手に取った
のがこの本であった。開

私の書
故郷の歴史 心のよりどころに
北海道開拓精神の形成

拓者精神は幻想に過ぎな
い。屯田兵制度は保護さ
れた官製開拓であり、成
功した伊達氏による移住
も結局は封建的
な土族の紐帯意
識によるもの
である。「北海
道は外地ではな
いにしても、内
国植民地であ
った。筆者の洞
察は当時隆盛し
つつあった心性
史を先取りする
ような手法で、
開拓当時の北海
道移住者の心の
あり様に及んで
いた。救われた。そして
「これだ」と得心し、指
導教員に開拓期北海道

Table with 5 rows listing books from the University Library Best Sellers section, including titles like 'Galileo's Torment' and 'Modern Times'.

「知識情報とメディアの世界」
歴史をたどる資料を展示
「五榜の掲示」や「百科全書」も
を展示する「知識情報と
メディアの世界」の二部構
成で行われた。
第一部の展示では明治時
代に発布された「五榜の掲
示」や、デイドロやダラン
ペールの百科全書派に
よって18世紀にフランスで
執筆された「百科全書」な
どの貴重な資料が展示さ
れていた。第二部はパネル
形式で、知識情報・図
書館学類の前身である図
書館情報大学の時代から
2011年までに行われて
いたさまざまなイベントの
写真が展示されており、当
時の懐かしい風景を一度に
楽しむことが出来る。
今回の展示は、本学の知
識情報・図書館学類と、図
書館情報メディア研究科の
展示は、古くはメソポ
ミアの粘土板から新しくは
電子書籍まで、古今東西の
メディアを展示する「メ
ディアの発展、古代から現
代へ」と、図書館情報大学
の開学から今年までの写真
念じて行われたもの。

「知識情報とメディアの世界」
歴史をたどる資料を展示
「五榜の掲示」や「百科全書」も
を展示する「知識情報と
メディアの世界」の二部構
成で行われた。
第一部の展示では明治時
代に発布された「五榜の掲
示」や、デイドロやダラン
ペールの百科全書派に
よって18世紀にフランスで
執筆された「百科全書」な
どの貴重な資料が展示さ
れていた。第二部はパネル
形式で、知識情報・図
書館学類の前身である図
書館情報大学の時代から
2011年までに行われて
いたさまざまなイベントの
写真が展示されており、当
時の懐かしい風景を一度に
楽しむことが出来る。
今回の展示は、本学の知
識情報・図書館学類と、図
書館情報メディア研究科の
展示は、古くはメソポ
ミアの粘土板から新しくは
電子書籍まで、古今東西の
メディアを展示する「メ
ディアの発展、古代から現
代へ」と、図書館情報大学
の開学から今年までの写真
念じて行われたもの。

MC展
本学大学院人間総合科学研
究科博士前期課程芸術専攻コース
の学生による作品展「MC展」が、12月3(土)・11(日)に、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で行われる。同コースで洋画・日本画・版画を学ぶ1、2年生35名が日頃の制作・研究の成果を披露する。入場無料で開館時間は9時30分~17時(最終日は14時まで)。

クリスマスライブ
本学アカペラサークルDoo
Wopによるクリスマスライ
ブ「Christmas Live 2011」が、12
月17日(土)につくばバイオホール(つくば市竹園)で
開催される。
17時30分開場、18時開演。入場料は前売500円、
当日600円(小学生以下は無料)。

体芸カフェ
学内で採れた野菜などを用い
た軽食を提供するカフェが、12
月5(月)~7日(水)の午後3時~7時、体芸食堂で
行われる。芸術専門学群の学生有志が行っているアスレ
チックガーデンプロジェクトが以前から不定期に企画し
ている「学生カフェ」の一つだが、今回はとんとんへりん
と共同で行う(11面に関連記事)。
問い合わせ=y_29118@yahoo.co.jp(中塚)

1位ランキングしたのは
「ガリレオの苦悶」悪魔の
手と名のつくものか、監視
に送られた文書をあ
ぐり、邪悪な犯罪者「天才物
理学者・湯川の対決を圧倒
的なスケールで描く。
また、松居憲による紀行
文集である「おくのほそ道」
も4位にランキングした。
11月30日まで15%オ
フフェア開催中。



意外と知らない 地元の名所

洞峰公園 ④



動物との触れ合いも楽しめる

本学にはさまざまな運動部やスポーツサークルがあり、多くの人が豊富な運動施設で日々汗を流している。だが、それらのサークルに所属していないが、友達とスポーツを楽しむ

スポーツと癒やしを求めて

みたくという人もいるだろう。そんな人にお勧めの場所がある。つくばセンターから自転車ですぐに10分、洞峰公園だ。洞峰公園にはさまざまなスポーツ施設がそろっており、多くの人が豊富な運動施設で日々汗を流している。だが、それらのサークルに所属していないが、友達とスポーツを楽しむ

宝篋山 ⑤

筑波連山の最南端、筑波キャンパスから直線距離で4.5kmの位置には、宝篋山(ほうきょう)山という山がある。筑波山は市の最北端に位置し、距離、標高ともに数層

身近にある絶景スポット

この山は高さ461mあり、気軽に登ることができる。50年ほど前から人が入らなくなり荒れ山となっていたが、8年前に登山道が整備され、再び入れるようになった。ここでは宝篋山までの道と、その登山道を紹介する。

宝篋山へ至る道はいくつかあるが、特につくばりんりんロードを経由するルートがおすすすめだ。途中の広い田園地帯からは、これから登る宝篋山の全体像を見渡すことができる。県道200号線をつくばりんりんロードで左折し、県道53号線をくぐった先が小田の町だ。



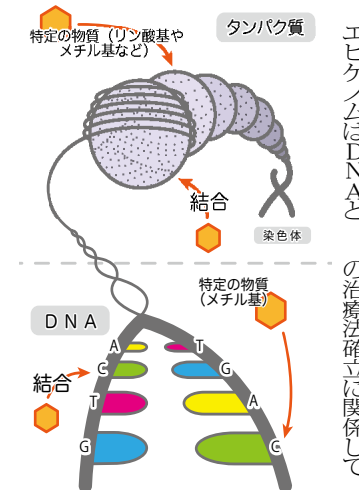
田園地帯から宝篋山を眺める



筑波自然図鑑



アオサギ
撮影地=つくばエキスポセンター



エピゲノムとは何か。その研究が生命の秘密とどう関係するのか、深water教授に聞いた。エピゲノムはDNAと

期待のわが子の出産。幸せに包まれた夫婦に忍び寄る悪魔がいる。妊娠高血圧症候群だ。妊婦の約1割が発症し、妊婦の死亡の最大の要因だ。原因の解明や治療法は確立していない。だが、深水昭吉教授(生環)が研究する「エピゲノム」が、妊娠高血圧症候群の治療の鍵を握っている。

「エピゲノム」とは何か。その研究が生命の秘密とどう関係するのか、深水教授に聞いた。エピゲノムはDNAと

同じく生物の設計に関係する。その正体は化学的な変化という現象だ。種類は2つある。1つ目はDNAのメチル化という変化。2つ目は、ヒストンというタンパク質に起こる変化だ。染色体は長い糸状のDNAをヒストンが巻き取ってできている。

この変化が私たちの体の構成を変える。だが、1生変化しないゲノム情報であるDNAと異なり、エピゲノムは環境などが

その後、母親マウスの血管を取り出して調べると、妊娠前と比べて、ヒストンのエピゲノム情報に変化していた。

これはエピゲノムに的を絞った妊娠高血圧症候群の治療薬の探索や開発ができる可能性を示している。

だが実用化に向けては課題も多い。まず、倫理的問題がある。ヒトを研究対象とすることができないため、研究の確立が見込めない。次に技術的な問題だ。妊娠高血圧症候群のマウスの子どもは死ぬため、また妊娠高血圧症候群のマウスを作るのに長い時間が必要となる。

深水教授は「治療法の確立には相当の時間が必要だ。だが、いずれ私たちの基礎データが役立つ時が来るかもしれない」と語る。

より安全な出産へ。生命の神秘、誕生に関わるこの研究が多くの人を笑顔にする日も近いかもしれない。(中島佳奈 2人文学類)

ラグビー 関東大学対抗戦

33年ぶりに早稲田大に勝利

早慶を破るのは史上初

ラグビー

「抗戦で、本学が1978年、以来33年ぶりに早稲田大学に勝利した。関東大学対抗戦は9月10日から始まって、慶應義塾大学(同2位)、



早稲田大の突破を阻む本学選手(写真提供: TSA武田)

成蹊大学(同6位)に勝利し、10月30日現在、3勝1敗で暫定3位。早稲田大と慶應義塾大両校に勝利したのは、史上初。本学は堅い防御で早稲田大を圧倒し、試合開始から5分で松下彰吾(体専2年)が先制点をあげた。7人制ラグビーの日本代表に選出された11番竹中祥(同1年)と14番塚匠(同3年)の両ウィングの活躍も光り、前半が終わった時点で18-0。早稲田大の攻撃をタックルで押し返し、後半15分で点を取られるも、21-7で勝利した。

監督(体育)は「メンタル面が強くなった。勝ちを信じての成長させた」と話し、課題点であった反則プレーからの失点も、「規律を守るといふ意識のもと、チームで一丸となって改善してきた。古川監督は、主将の村上大記(体専4年)と副将の中川克信(同の強いリーダーシップのもと練習を重ねた結果、上位校を上回る」

が、規律を守るプレーができれば、筑波大のディフェンスが崩れることはない」と自信を見せる。早稲田大は大学対抗戦では過去34回優勝し、今年3連覇を目指しているラグビーの伝統校。今回の勝利を契機に、これからの試合展開と大学選手権出場にも大きな期待がかかる。

鹿島に健闘も敗れる

リーグ戦は首位と好調

サッカー

天皇杯・リーグ戦

「ラプである鹿島アントラーズと対戦。健闘したものの、0-2で敗れた。試合当初、赤崎秀平(体専2年)を中心に攻め込む。鹿島を相手に試合を優位に進め、前半23分にポスト直撃のシュートを放つなど、決定機を何度ももった。3日-10月30日にかけてつくばカピオ(つくば市竹園)などで開かれた。1部に所属し、春のトーナメントでは4位の成績を修めた本学は、8勝10敗の5位でリーグ戦を終えた。近年では最高の順位。吉田健司監督(体育・准教授)は「最終週に主力がけがしてしまっただけで、ここ数年で一番の成績を修めることが出来た。ただ1対1で弱いの、残りの4人の動きも含め、確認していきたい」と話した。11月21日から始まるインカレでは優勝を目指す。

しかし前半33分、元日本代表の田代有三に先制点を許してしまうと、後半22分に石神幸征(同4年)が豊富な運動量を生かした守備でピンチを何度も救った。石神の活躍もあり、後半を無失点に抑えたものの、反撃はせず、0-2で敗戦した。

試合後、カシマスタジアムを訪れた多くの関係者から拍手を受け、健闘を称えられた。第85回関東サッカーリーグ後期日程が、9月9-12月4日に行われている。本学は10月28日現在、前期の結果と合わせて、首位を走るなど好調をキープしている。後期日程初戦の青山学院大戦こそ無得点で、引き分けに終わったが、その後の3戦では8得点と攻撃面で

鹿島の選手を抜く谷口彰悟(体専2年)

女子震災乗り越え優勝

男子近年最高の5位に

バスケット

「第61回関東大学女子学生バスケットボールリーグ戦が9月3日-10月23日にかけて国立代々木競技場第二体育館(東京都渋谷区)などで行われた。本学は12勝2敗の成績を修め、3年ぶり16回目の優勝を果たした。他の上位校とは異なり、1学期は地震の影響により学内の体育館の使用が不可能な期間や、練習時間が短縮された期間もあった。近隣の学校や大学が練習場所を提供してくれた。協力がなければ、今回の優勝はなかった」と大高敏弘監督(体育・教授)は振り返る。

個人賞は以下の通り▽最優秀選手賞▽天野佳代子▽優秀選手賞▽伊集南▽監督賞▽大高敏弘

女子

今年度から新しくなったユニフォームを着て順調に勝ち進んだ。例年に比べ、安定したディフェンスで失点を防ぎ、各選手が偏りなく得点した。個人の技術だけでなく、チーム力で勝ち

日連続合宿を行った。またU-24女子代表に選出された天野佳代子(同4年)の活躍で勢いに乗り、終始リード。72-78の接戦を制した。大高監督は、「下位チームとの試合でどこかほろろと、上位チームとは実力が伯仲した。インカレではオフェンスを強化して臨みたい」と話した。

5月の関東大学バスケットボール選手権では8位に終わり、悔しさを胸に夏は12

男子

第87回関東大学バスケットボールリーグ戦が、9月



ドリブルする伊集(写真提供: TSA)

全日本学生選手権大会

男子小倉が3度目の優勝

女子遠藤が優勝果たす

柔道

「全日本学生柔道体重別選手権大会及び、全日本学生女子柔道選手権大会が10月8、9日に日本武道館(東京都千代田区)で行われた。本学からは、男子が10人、女子が7人が出場した。そのうち、男子は66kg級の小倉武蔵(体専4年)が優勝、100kg級で金子亮平(同

3年)が3位、女子は48kg級の遠藤宏美(同1年)が優勝、57kg級で武井嘉恵(同3年)、78kg級で菅原歩(同2年)3位に輝いた。小倉は決勝で高上智史(日本体育大)と戦った。互いに技をかけるもなかなか決まらず、延長戦にもつれるかと思われた。しかし小倉がタイミングよく足払いを決め技あり。そのまま抑えて3度目の優勝を果たした。遠藤は決勝で、塚原唯有(環太平洋大)と戦い、背負い投げで一本勝ちを決め、優勝した。柔道部の増地克之監督(体育・講師)は「全体的に見るとしっかり自分の柔道でできた人となりが多かった人に分かれた。小倉は昨年負けてしまったこと、後輩の森下が活躍していることで、何としても勝ちたいと思ったことが優勝につながったと思う。遠藤は先月の大会で勝って当然と思っていたが負けてしまった。今回は思い切った挑戦者として臨んだのがよかったのでは」と大会を振り返った。「とにかく自分たちの課題を一つひとつクリアし、追い込んだ稽古をするしかない」と今後の課題について語った。

エアロビックス選手権大会

諏訪部が2種目で優勝

シングル3連覇は大会初

体操

「第28回全日本エアロビックス選手権大会が10月31日に東京武道館(東京都渋谷区)で開催され、体操部の諏訪部和也選手(体育2年)が男子シングル、ペアの2種目で優勝を果たした。この優勝で諏訪部はシングルで3連覇という大会初の快挙を成し遂げ、今シーズンのワールドチャンピオンの実力を見せつけた。体操部顧問の本谷聡監督(体育・講師)は「今夏までのフランス留学のさまざまな経験の成果が、競技結果に表れているようだ。諏訪部は自身の長所を長く理解し、それを最大限生かした演技をしている。それが世界チャンピオン、全日本3連覇という良い結果につながったのだと思う」と語った。

他チームを圧倒している。特に赤崎は10月15日の国士館大戦で2アシスト、10月22日の順天堂大戦でハットトリックを達成するなど、攻撃の要として活躍している。後期の結果は以下の通り。▽筑大0-0青学大▽筑大2-1駒大▽筑大3-1国士館大▽筑大3-1順大



小倉武蔵

六大学対抗陸上競技選手権 強豪校破り総合優勝



三段跳で3位の米澤宏明(体専1年)

松下が優秀選手賞に 高橋が関東学生新記録

実業団・学生対抗
陸上
天宮大学、日本大学、東海大学、日本体育大学、中京大学、男子選手が競う大会で、大学トップレベルの戦いが繰り広げられた。
三段跳で松下翔一(体専4年)が16歳05で優勝し優秀選手賞を受賞したほか、400mで佐藤慧太郎(同)

3年)が47秒38で、1000mの村吉星児(同2年)が10秒73でそれぞれ優勝を果たすなど、多数の入賞者を出した。また、村吉、近藤崇裕(同)、本吉隆(工シス3年)、馬場和樹(体専1年)が出場した4x100mリレー、加藤誠也

(同)、近藤、柳澤純太(同2年)、佐藤が出場した4x400mリレーは本学が制した。選手層の厚さを見せ付けた。総合では178.5点を獲得した本学が優勝した。
優秀選手賞を受賞した松下は、「桐の葉を背負った

最後の試合で優勝とMVPを獲得することができた。五輪標準記録も手の届くところにあるので、ロンドン五輪へ出場できるように来季も最高のジャンプをしたい」と語った。
その他の優勝者は以下の通り。▽110mH・大室

秀樹(同3年) 13秒89
▽1500m・中村康宏(同) 3分52秒98
▽5000m・丹治史弥(同4年) 14分23秒99
▽10000m・小野真弘(同) 51分14秒
▽4x100mリレー・筑波大 40秒55
▽4x400mリレー・筑波大 3分10秒75
第51回実業団・学生対抗陸上競技大会が、10月15日に平塚競技場(神奈川県平塚市)で開催された。
女子円盤投の高橋亜弓(体専4年)が52歳87の関東学生新記録で優勝を果たしたほか、男子800m以下は中村康宏(同3年)が1分50秒43で優勝した。そのほか、男子三段跳で伊藤太一(同2年)が16歳08で3位、真下まなみ(同)が女子800m以下で2分07秒41で2位に入るなど、6人が入賞した。

しかし6回裏に一点を追加し、勝ち越しに成功。続く7回も相手の失策で出塁を生かして3塁に進み、チャンスを作る。このチャンスに星野健太郎(同3年)が適時打を放ち、追加点を挙げた。

女子 攻撃で奮闘し3位 男子 連敗を重ね5位

9月から行われていた2011年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦が、10月16日に終了した。女子は10勝1敗の3位、男子は6勝5敗の5位で全日程を終えた。
女子は、10月2日の日体大戦をきっかけに試合の組み立て方が向上した。第1セットは、野末夏子(体専4年)、彌永衣利(同3年)が攻撃面で奮闘したが、守備にミスが目立ち、22-

から攻撃へとつなげるパターンを増やしていき「い」と話した。
男子は、リーグ戦序盤に4連勝し、上位をキープしていたものの、出雲田(体専2年)の故障をきっかけにチームの調子が下がり始め、連敗が目立つようになった。また、体力やコンディショニングにも課題が残るリーグ戦となった。
都澤凡夫監督(体育・教授)は「全日本インカレに向けて、チームとして安定した力を発揮し、負けにくいチームを作る必要がある。そのために、全日本インカレまでの今後1カ月間でディフェンス力を強化していきたい」と語った。

野球場(神奈川県平塚市)などで9月10日から行われていた首都大学野球秋季リーグ戦が、10月24日に終了した。本学は4勝8敗で5位に終わった。
2部降格の危機もあった今季。土浦市営球場(土浦

市)で行われた武蔵大戦は落とせない試合となった。1勝1敗で迎えた10月10日の第3回戦。2回裏本学は先頭打者の松浦昌平(体専2年)が安打で出塁。内野ゴロと川本真也(同)の安打の間に松浦が3塁に進む。このチャンスに川村卓監督(体育・准教授)が取っ

た作戦はスクイズ。甲津賢人(同)が見事に決め、先制点を挙げた。
先発の久保貴大(同4年)は5回まで無得点に抑えたが、6回に突如乱れる。安打と犠打でランナーを2塁に進められると、ピンチを抑えきれず、同点となる適時打を許してしまう。

9年ぶりの優勝果たす

剣道

全日本学生剣道優勝大会
第59回全日本学生剣道優勝大会が10月23日、日本武道館(東京都千代田区)で行われ、本学が9年ぶりの10回目の優勝を果たした。前回の関東学生剣道優勝大会では思わしくない結果だったが、選手の喜びもひとしおだ。
3回戦では前大会で敗れた日本体育大と対戦。1対1の引き分けから大将戦となり村上雷多(体専4年)

が小手を一本決めて準決勝へつなげた。準決勝では早稲田大との代表選で村上が小手を決め勝利。続く決勝では中央大と対戦し、一進一退の引き分けのまま代表戦に。短時間で村上が小手を決め、優勝を勝ち取った。「相手が返し胸のうまい選手だったことから、監督との戦略で、小手で攻めると決めていた。優勝したときには実感がわかなかったが、ほんとにした」と村上は話す。

今回の試合は、4年生の村上、前了斗(同)、神田智浩(同)にとっては引退試合でもあった。前は「集大成としていい結果が残せたい。自分の調子は良くはないが、自分が出ることができた」と語った。村上は「思い切った。全部出し切ったつもり。選手になれない4年生もいたが、全員で団結できた。監督への恩返しにもなったと思う」とそれぞれ語り、まさに有終の美を飾る形となった。
また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

さには有終の美を飾る形となった。
また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、1丸となった4年生も一丸となって引張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。
次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。



スパイクを放つ彌永(日本体育大戦)

顔

本学のオリビック代表候補の1人にトライアスロンの椿浩平(体専2年)がいる。9月24、25日に台湾のイランで行われた2011年アジアトライアスロン選手権では、23歳以下男子の部門で見事優勝を果たした。ジュニア時代から負けなしといわれ、アジアの舞台でも名が知られている。身長170cmの細身の体つきからは想像できないくらい、一番のレースでの勝負強さを武器に、ジュニア時代から数々の功績を修めてきた。
トライアスロンはスイム、バイク(自転車)、ランをこの順番で連続して行う耐久競技だ。なかでも椿が専門とするのはスイム1.5km、バイク40km、ラン10km、合計51.5kmというレース距離の大会。9月のアジア選手権も同じレース距離の大会で、スイムはトップ集団から遅れて通過したが、バイクでトップ集団に追いつき、そのまま得意のランに勝負を手にした。

椿は昨年の秋から世界レベルの練習が出来ていない。にもかかわらず、今年6月の2011 NITTU トライアスロンジャパンカップでの優勝をはじめ、多くの大会で順調に成績を修めてきた。
だが、椿の強みは勝負しい。休日の過ごし方を聞くと「疲れをとるために家に引きこもることが多い。大会の手続きなど事務的なこともやる」と、どこまでもトライアスロンに没頭している。
「トライアスロンは自己対決の競技だ。短い距離でもいかに目標のスピードを出すかを意識し、自分の出せる限界をどれだけ出せるかに挑戦する。トライアスロンは鉄人レースといわれる長距離競技だが、短距離の練習が鍵になるよ」と、5年後のブラジルリオデジャネイロオリンピックに自分の一つの節目をもっといいたい。そのためにオリビックがどんなものかを見にロンドンに出たい。椿の目は既にロンドンの次を見据えている。

トライアスロンといえは椿浩平、そんな時代が来ることに期待したい。(井上祐貴(地球学類))

勝負強さと挑戦心で世界へ

勝負強さと挑戦心で世界へ
勝負強さと挑戦心で世界へ
勝負強さと挑戦心で世界へ

勝負強さと挑戦心で世界へ
勝負強さと挑戦心で世界へ
勝負強さと挑戦心で世界へ



トライアスロン五輪有力候補 椿浩平(体専2年)



ベラルーシ国立大学
ロシア語サマースクール
(ベラルーシ)

清沢紫織

この夏、私は猛暑の日本を逃れ、はるばるベラルーシ共和国のミンスタにあるベラルーシ国立大学で開催されるロシア語のサマースクールに参加してきました。ベラルーシはバルト三国の南、ロ

一緒にいることの大切さ

ふるさとつくばゆいまつり

来年3月に開催決定

地域とのつながり作る

本学生が主体となつてつくる新しい祭「ふるさとつくばゆいまつり」が、2012年3月10日(土)は市内で開催される。開催場所は未定だが、地域の企業などが出店したりライブイベントを行ったりする予定だ。

研究者、地域住民など多種多様なコミュニティが点在しているが、それぞれのコミュニティ同士が連携していき、市の年間行事の1つとして位置づけられる。そのコンセプトは「つながりをつくる」。そのコンセプトの通り、ゆいまつり名前を取っている。ゆいまつりで作られたつながりは祭が行われている時だけでなく、祭が終わった後も続いていく。つながりという意識が、祭が終わった後も続いていく。つながりという意識が、祭が終わった後も続いていく。

「つくば井」誕生
学園祭での投票で

本学の学生団体We M(ウェム)による企画で、6月からレシビコンテストが実施されていた「つくば井」が、10月8-10日に行われた学園祭で決まった。つくば井は本学の佐藤純講師(人間と学生らが「たぐさ」の人の巻き込み、つくば市の新しいグルメを作る」というコンセプトのもと企画した。

「つくば井」誕生
学園祭での投票で

本学の学生団体We M(ウェム)による企画で、6月からレシビコンテストが実施されていた「つくば井」が、10月8-10日に行われた学園祭で決まった。つくば井は本学の佐藤純講師(人間と学生らが「たぐさ」の人の巻き込み、つくば市の新しいグルメを作る」というコンセプトのもと企画した。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

「つくば井」誕生
学園祭での投票で

本学の学生団体We M(ウェム)による企画で、6月からレシビコンテストが実施されていた「つくば井」が、10月8-10日に行われた学園祭で決まった。つくば井は本学の佐藤純講師(人間と学生らが「たぐさ」の人の巻き込み、つくば市の新しいグルメを作る」というコンセプトのもと企画した。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

シヤとポーランドの間に位置する国で、旧ソ連構成国の中ではロシアに次いでロシア語が広く使われている国であり、かつロシアと比べはるかに治安が良く、学費も良心的であるため、さまざまな国からロシア語留学を目的とする学生が集まっている国でもあります。私が現地に出会った留学生たちの国籍は、中国・韓国・ベトナム・マレーシア・トルコ・イラン・カナダ・スペイン・イタリア・ドイツ・ポーランド・スロヴァキアと実に多様でした。

「つくば井」誕生
学園祭での投票で

本学の学生団体We M(ウェム)による企画で、6月からレシビコンテストが実施されていた「つくば井」が、10月8-10日に行われた学園祭で決まった。つくば井は本学の佐藤純講師(人間と学生らが「たぐさ」の人の巻き込み、つくば市の新しいグルメを作る」というコンセプトのもと企画した。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。



ミール城で現地の友達と(右が清沢さん)

初種目の缶蹴りが盛況

多くの学生が汗流す

第35回秋季スポーツデーが10月22、23日に体芸エリアを中心とした学内18カ所の会場で行われ、今年も多くの学生・職員が汗を流した。初日の土曜日はあいにくの悪天候のため、サッカーやテニスなど屋外で行われる種目を順延したが、2日目の日曜日は天候に恵まれ、絶好のスポーツ日和となった。



ゴールテープを切る石嶋さん

部で優勝した「凛」としては、ななは医学硬式庭球部のメンバーで構成されたチーム。リリーターのほななど名乗る女子学生は「テニスで培ったチームワークを活かすことができ、練習の成果が随分出てきた。北は一度集まって練習した。昨年このチームで優勝した際に『来年も優勝しよう』と目標を立てたので、その目標が達成できてうれしい。つくばマラソン本番も頑張りたい」と話した。



グランプリの「つくねと野菜のヘルシー丼」

「つくば井」誕生
学園祭での投票で

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。

本学のOB・OGと在学生の交流を目的とした「キャリア支援懇話会」が、9月30日に共同利用棟Aで行われた。三井住友銀行やJALなどのさまざまな業界から訪れた31人のメンターとの対話を目的に100人近くの学生が集まった。



それぞれの想い「息吹いた」

第37回 学内研究企画数増える

東日本大震災の発生を受け開催の自粛も考慮された学園祭、10月8～10日に開催された。今年のテーマは「いぶき」。震災を経て本学に息吹いたものや想いを感じてほしいという思いが込められた。(中島佳奈II人文学類、小川玲、ジョンソン、原啓二郎II社会学類、倉沢美紀、根津彩香II国際総合学類、中島光夫II情報科学類)

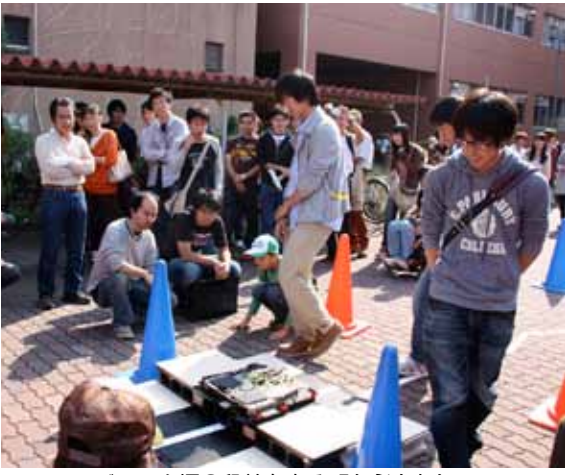


後夜祭オープニングセレモニーの様子

本年度は学内研究企画数が前年度に比べ31から45へ増加。来場者は、模擬店やステージ企画のほかにスパコン見学ツアー、研究室見学など、学園都市の中核に位置する本学らしい企画を挙げた。学園祭の頂点に立つ企画を決める「雙峰祭グランプリ」・ミスコン・TSUKUBAN BEAUTY「お笑いライブ」で盛り上がった後夜祭の最後を飾ったのは、打ち上げ花火。昨年に引き続き千浦全

◆院生プレゼンバトル(学内研究企画) 今年初めての企画、大学院生学際研究フォーラム(院生プレゼンバトル)が10月9日に開催された。選考予選を勝ち抜いた大学院生5人が「異分野の人とわかりやすく、研究の魅力を伝える」プレゼンテーションの技術を競う企画で、山田信博学長ら招待審査員、高校生、当日来場者が採点に参加した。出場者は「メチル水銀毒性リスクの軽減」、「漢字変換誤りの自動訂正」などの研究を発表。優勝と高校生賞を獲得したのは「情報デザイン」をテーマに発表した植生孝慈さん(工学1年)で、聞き手を引き込むプレゼン技術が評価された。企画団体のTGN(つくば院生ネットワーク)代表の石田尚さん(社シス2年)は、本学の学術的な風土を生かす学園祭企画の少なさに問題意識を持ち、学研企画の増加に尽力した。「プレゼ

ンバトルは「発信する能力」を競う。院生らが出場を自指す企画になることを目指して、今後も開催を続けた」と話した。 ◆ロボットコンテスト(学研企画) 3棟前で「つくばロボットコンテスト」の決勝戦が行われた。工学システム学類開講の同名の授業の環境で、今年で20年目となる同大会では、計8チームの自立走行ロボットが出場した。今年のテーマは「凸凹街道」。全長約20mのコース内に設置されたブロック塀の段差を乗り越え、コースアウトすることなく走破することが目標。レンガのすき間や日光の反射などがセンサーに影響を与え、さまざまな障害を乗り越えるなど、野外ならではのトラブルが発生し、参戦したロボットを苦しめた。性能を競うだけでなく、製作者がロボットの動作の仕組みを観客に説明し、観客同士で失敗の原因を分析する光景も見られた。優勝ロボット「かぶとむし」を製作したチーム「ピートルズ」のリーダー、朝倉靖成さん(エシス1年)



ブロック塀の段差を上る「かぶとむし」

は、「1年生だけのチームで苦労したが、TAや先輩の協力、徹夜作業のおかげだ」と話した。担当教員の相山康道准教授(シス情)は、「かなりしっかりと動所まで持ってきてくれた。来年もより良いアイデア、優れたロボットを期待する」と話した。 ◆アカイブ映像の表現研究(学研企画) 図書館情報メディア系の鈴木誠一郎教授の研究室が主催する「アカイブ映像の表現研究」が、2A313教室で開催された。本企画では、現在では見られる機会が少なくなった8ミリフィルムなどの表現媒体が展示され、授業で学生が作成した映像が上映された。六本木ヒルズを撮影した21枚の写真から学生それぞれが10枚を選び、ひとつの映像に構成したものだ。訪れた人は、それぞれ異なる趣の作品を興味深そうに鑑賞していた。 ◆ソーラークッカー(体芸エリア) パラボラアンテナのような形をした銀色の道具の真ん中で、フライパンの上のブラウニーが湯気を立てて

いた。この道具はソーラークッカーと呼ばれ、太陽光だけで調理することが出来る。地球環境科学をキーワードに市民と研究機関をつなぐ団体「ジオネットつくば」のOB・OGがソーラークッカーを使って調理した食品を販売していた。 フライパンに触ると、電気やガスで調理する時と同じくらいの温かさだった。ブラウニーであれば1、2時間で焼き上がる。さまざまな燃料を使わずに済むことから、発展途上国での環境問題の解決にも役立つ。 ◆ゲイバー(体芸エリア) 5C棟の一角が、怪しげなバーに姿を変えていた。長蛇の列の先にあるのは、芸術専門学群1年が主催する恒例のゲイバー。男子が思い思いの設定に基づいた女性にふんして接客する、有名企画の1つだ。 薄暗い店内に入るや否や、ゲイたちが熱い接客を行う姿が目に入ってくる。テーブルではO.L姿のゲイがパフェを食べさせ、ステージでは髪をなびかせながら、ゲイがピアノとギターを演奏する。店内に入った時は引きつった表情を見せた客たちも、ゲイたちの本気の接客に囲まれるうちにだんだんと笑顔を見せるようになった。 20年以上続くといわれる伝統企画。主催者の清倉勇亮さん(芸専1年)は「準備は夏休みから始めた。プレッシャーがあったし大変だったが、大きな達成感がある」と厚いメイクを施した顔で笑いながら語った。学園祭が終われば彼らは元の芸術男子に戻る。だが彼らの心の中には、ゲイと

して過ごした3日間の思い出がいっつも残るだろう。 本戦は学生がレディー・ガガや市川海老蔵など今年話題となった有名人にふんして登場、観客の歓声を浴びた。学生ごとに洗濯機を持って走ったり、玉ねぎを食べてから走ったりするハプニングがあり、会場の笑いを誘った。今年の松美記念について代表の高橋完爾さん(社会学3年)は「1年生がさまざまなアイデアを考案してくれたので、より面白い企画ができた」と話した。

がままとんぴくりんに、草むしりをしていいる。横では自転車をこぐ学生たちが、ちらっとこっちは見ては過ぎ去っていく。「すでに気になる存在ではあるらしいんです。これが、もっと人が入りやすいような、面白い存在になったらいいな」と、梁井染音郎こと高田結希さん(同4年)はいきいきと語る。 彼らの活動は、畑や花壇の中にとまららない。12月には、芸術専門学群の学生有志が行っているアスレチックガーデンプロジェクト(AGP)とともに、カフェを開く予定だ(5面に関連記事)。 とんぴくりんとしては、「生産を感じる『食』を提供したい」という想いがある。ゆくゆくは、彼らの畑で作った野菜を出したいと考えている。 枠を取り払い、自らの手で道を切り開くとんぴくりん。畑を見つめる彼らの目は、常に輝いている。(森田聡II社会学類)

なっている言葉を書いて松美池を走った。 本戦は学生がレディー・ガガや市川海老蔵など今年話題となった有名人にふんして登場、観客の歓声を浴びた。学生ごとに洗濯機を持って走ったり、玉ねぎを食べてから走ったりするハプニングがあり、会場の笑いを誘った。今年の松美記念について代表の高橋完爾さん(社会学3年)は「1年生がさまざまなアイデアを考案してくれたので、より面白い企画ができた」と話した。

とんぴくりん

活動は、看板のニス塗りや、ナスと大豆の収穫、そして、空き地の雑草を業者が機械で刈り取る中、鎌を使った草刈り。活動内容はその場で決まる。思いつい



農業を肌で「感じる」

て、創造性がない。そこで、すべてを自分たちで考え、農業を肌で「感じる」機会を作り、そして発信したいと思い、昨年6月に立ち上げたのがとんぴくりんである。 茨城弁で「常識外れ」を意味するとんぴくりん

好意的だ。 また、次回のミーティングの日時は、ミーティングの最後に決める。役職はなく、「全員が代表」という気持ちで二人ひとりが持っている。活動日や活動内容もそれぞれ。すべては彼らの思う

探るたんぼ

5C棟方面から平砂学生宿舎側へペDESTリアンデッキを下り、横断歩道を渡ると、空き地に木の看板が掲げられている。よく見ると、そこには畑があり、にぎやかに耕している人がいる。今回私が訪れた「とんぴくりん」の風景だ。

たんぼ探りとは、先に挙げた空き地や天の川にある花壇に、野菜などを植える活動をしている。メンバーは10人前後で、活動頻度は人によってさまさまだ。私が同行した日には3人のメンバーが集まっていた。この日の活動は、看板のニス塗りや、ナスと大豆の収穫、そして、空き地の雑草を業者が機械で刈り取る中、鎌を使った草刈り。活動内容はその場で決まる。思いつい

松美記念では1年生による新人戦と、3年を中心とする本戦の2つのレースがある。新人戦の選手は白Tシャツに「節電」の文字になる時など話題に



レース終了後に健闘を称え合う参加者

Who's Who?

NPO 法人「矢中の杜」の守り人」理事長

早川公 さん (国際政経5年)



保存・活用活動に取り組む「旧矢中邸」と早川さん

「つながりがつなかりを呼び、ひよんなやり取りから感動が生まれる場所」へ。筑波山参拝の門前町として江戸時代から栄えた、つくば市北条地区。古い土蔵や道標が残る街並みの中に、木造近代和風住宅「旧矢中邸」がたたずんでいた。北条出身で明治の実業家の矢中龍次郎氏が1938

年(昭和13年)から15年をかけた建設した矢中邸が持つ文化的価値を守り、生かそうと活動に取り組むのが、NPO法人「矢中の杜」の守り人」理事長、早川公さん(国際政経5年)だ。「数値やデータでは測れない、人が生きる意味での経済」に興味があったという早川さんは、国際総合学類での

文化財の価値守りながら活用 人とつながる空間を創る

学群生時代から北条地区に関わり始め、大学院に進学してからは商店街での地域通貨の取り組みに関して修士論文をまとめた。北条商店街は、母の実家宮城県田舎にある商店街を想起させる。学生組織「チームごじゃっぺ」を通して、共に町づくりに関わる仲間も増えた。そんな中で出会ったのが、特産品「北条米スクリーム」の開発仲間、井上美菜子さん(平成22年度世界遺産修)が修復に関わり始めた「旧矢中邸」だった。矢中邸は矢中氏が開発した製品が多用された「実験住宅」で、地元では昔から「矢中御殿」と呼ばれていた。内部は和洋折衷様式で、当時のきらびやかな調度も多く残る。しかし、早川さんらが活動を始める前は、敷地には植物が生い茂り、建物自体は廃墟同然だった。

矢中邸が持つ文化財としての価値をないがしろにせず、活用していきたい。そんな思いを大事にして活動に取り組んだ。遺産保存の専門知識を持つ井上さんが、保存に関する多くを取り仕切り、「立ち上げ屋」の早川さんが矢中邸で「何かやりたい」という思いを実現させる。言わば両輪の関係。修復活動はまだ道半ばとは言え、今年7月には国の登録有形文化財の認定も受け、今では月に数日公開日を設け、来場者にガイドツアーを提供出来るまでになった。文化講座など幾つかのイベントも開催してきた。

活動の一環、月例掃除会は、早川さんが大事にする「修復活動の原点」だ。「近くの米屋さんからもらった米ぬかで磨くと、廊下がぴかぴかになる」という。手伝いに来てくれる地元の人との食事や会話を通じては、季節を感じられる。「筑波山麓に根付く古い物の中の良さを見直す中で、未来を考えていけると思う」と話す。

研究に没頭する傍らNPOの理事長を務め、ボランティアベースでは運営が厳しい現実を感じてきた。現在は「つくばの街づくり」をテーマに博士論文を執筆中。「30代に入る今、これまでの長い学生の学びを越え、ビジネスのノウハウを身につけたい。活動も2年目に入ったので、矢中邸を100年保つるために計画を立てたい」と意気込む彼はバイタリティーにあふれている。

矢中邸にかける情熱の源泉は何なのか。北条への愛着、研究対象としての魅力だけでは説明できない」と早川さんは言う。縁に導かれた自分が、仲間たちとともに、「帰れる場所」をつくりたいという想いはある。「多くの人が未来への漠然とした不安を持つ今、文化的価値観を確かとして人が集まれる空間を、矢中邸をベースとして作ってきたい。よみがえりつつある邸宅が北条地区活性の確かな礎となり、同時に多くの人の心のふるさとになる。そんな日のために、彼と人々の挑戦は続いていく。(小川玲二社会学類)

編集後記

編集長になりもうすぐ1年。親しみを持つる編集長を目指して振る舞ってきました。しかし、それが行き過ぎて、最近「編集長の威厳」がなくなってきたしまいました。部員は僕の言う通りに原稿を直してくれない、指示を出してもイヤホンに遮られて声が届かない。組織のトップに立つ者としてこのままではいけない。これからは厳しく

次号は

12月5日(月)

発行予定です

ドイツ大統領来学



講演するウルフ独大統領

1面へ

ラグビー、早稲田大を撃破



早稲田大選手を振り切る竹中祥(体専1年)

8面へ

陸上、六大学で対抗戦



110mハードルで2位となった猪野泰介(体専3年)

9面へ

舞踊研究室「身体広場」



演技で観客を魅了する出演者

5面へ

学内総合

スポーツ

スポーツ

学芸